

「私を愛する者の声を聞く」

私の母教会である高の原教会にいらっしゃる、ある教会員が「良い説教とは何か」という話を聞かせてくれました。と言っても、もう 10 年以上前の話ですが、今回の説教を考える中で、ふと思ひ出されましたので、ご紹介できればと思います。この方曰く、良い説教とは、「教会からの帰り道にようやく理解できるくらいの難しさ」を持った説教なんだそうです。牧師が、つらつらと 20 分くらい説教を語り、最後に「では、お祈りを致します」と言って、説教の総括を含めた祈りを捧げている段階で、理解できてしまうくらいの柔らかい説教は、良くないってことですね。もうちょっと歯ごたえが欲しいと。スルメや干し肉くらいの噛み応え十分な説教が「良い説教」だと、この教会員さんは教えてくれました。・・・そうなんですか？ 未だに私はこの良い説教基準が腑に落ちなくて、出来るだけ噛み切りやすい、消化に優しい説教をと志してはいます。志しているのであって、実現出来ているか、どうかはちょっと分かりませんが、とりあえず、わざとスルメのような説教することはありません。もし、もっと噛み応えのある説教が良いと思われるなら、そのように仰って頂ければ、ステーキの焼き具合のように、多少の融通はできるかも知れません。今日は、柔らかめのレアが良いとか、歯ごたえ重視でウェルダンが良いとか、ちょっとならご希望に添えるかと。

事実として、私たちが日々親しんでいる聖書も、プリンのように柔らかく分かり易いところもあれば、まるで石や砂を食んでいるような固くて難しい箇所もあります。今日の気分によって、心の具合によって、私たちは柔らかい御言葉か、固い御言葉か、選んで読むことができます。それが、聖書の良いところであると私は思っています。私は、分かり易い説教を努力しますが、だからと言

って、なんでもかんでも分かり易いのが正義とは思いません。難しいことを、難しいままに受け止めて、理解することも時には必要でしょう。

変なたとえ話で恐縮ですが、国会議員さんは、議案を提出する前に、各省庁の官僚から議案のレクチャーを受けるそうです。ただし、専門的な知識に精通しているとは限らない議員さんに対して、官僚は分かり易い説明を心掛けるのだと言います。それは、一見すれば親切かつ理に適った配慮のようにも思えますが、ただ、その分かり易い説明のために、省かれてしまった部分もあるわけですよ。しかも、その省かれた部分が、重要かそうでないかの判断は、議案を提出したり、議決したりする議員さんではなく、説明係に過ぎない官僚が行うわけですから、一体、主導権が誰にあるのか、よく分からなくなってしまう。時間がかかっても、理解に困難を来しても、一から十まで把握する必要が生じる場合もあるということです。

聖書も、時に分かり易く主の御言葉を伝えて即座に慰めを与えてくれることもあれば、固く難解な御言葉と格闘しなければ得られない慰めに、やっとのことで辿り着くという場合もあります。そのどちらも味わい、経験することで、聖書のより深い魅力に気付くことができるのだと思います。

「わたしの民よ、心してわたしに聞け。わたしの国よ、わたしに耳を向けよ。教えはわたしのものから出る」。今日の聖書箇所は冒頭の部分です。「聞け、イスラエルよ」というユダヤ教の最重要テーマに沿う形で、神様の御言葉が響いています。ただし、先ほどからお伝えしている通り、「心してわたしに聞け」と言われているところの、神様の御言葉は、分かり易い御言葉であるとは限りません。もしかしたら、理解するまでに一生に近い時間がかかる御言葉かも知れません。6節にあるように「天に向かって目を上げ、下に広がる地を見渡せ」と言うような、逞しい想像力が必要となることもあるかも知れません。そうまでしないと知ることのできない御言葉や御業もきっとあるのでしょ。そもそも、聖書に書かれていることが、分かり易いだけの安直な言葉に過ぎなかった

なら、2000年という長い年月にわたり魅力や影響力を保ち続けることはできなかったかと思いません。「聖書の良いところは、その適度な難しさにある」とも言えるかも知れません。そして、その適度な難しさも持った聖書に、それぞれ異なる賜物を持った牧師が関わることで、何年経っても色褪せない説教や礼拝の恵みがあるんじゃないかな、と個人的には考えています。

聖書は、ファーストフードじゃないんですよ。早くて美味しいものではありません。もしかしたら遅くて不味いという、この世的な価値観からすれば、何の魅力も持ち得ないものかも知れません。でも、不味くても、無用の長物だとしても、それでも、心の片隅に置いて、埃を被るほどに長い時間、親しみ続けることで、ようやくその真価を発揮する、なんてこともあるのでしょう。「わたしに聞け。正しさを知り、わたしの教えを心におく民よ」と、今日の聖書箇所でも言われていますが、「心におく」とは、瞬間刹那の喜びや納得感とは相容れないものだと言えます。「打てば響く」のではなく、稲光の後にしばらく時間を置いて雷鳴が聴こえてくるように、今示された御言葉が、自分の心に響き渡るまでに、長いか短いかは分かりませんが、一定の時間差があるのだと思います。

だから、御言葉に耳を傾けるとするのは、気の長い行いです。「すぐに、今ここで」という現代社会の要求には応えることができません。「待つ」という姿勢が必要です。そして、「待つ」ためには、その御言葉を語られた方への信頼が不可欠です。「待つ」に値する方であると信じるのが大切です。知らない人のことを待ち続けるのは苦痛でしかありません。でも、自分を愛してくださっている方を待つのは、まあ、それも決して楽しくはありませんが、ただ不毛な感じはしないでしょう。

「自分を愛する者の声を聞く」ために待つのは無駄な行いではありません。つまり、それは神様の愛を信じる私たちにとって、聖書の御言葉は無駄ではないということです。たとえ、御言葉を理解するのに、数時間かかっても、数日かかっても、数か月、数年かかるとしても、無駄ではないということです。神様の愛を信じるなら、どんなに固く、難解な聖書箇所でも、それは必ず味わい深い

御言葉に変わります。長期熟成された味噌や梅干しやヴィンテージワインのような付加価値と感動が生まれます。

ここで、また変なたとえ話で恐縮ですが、とある居酒屋チェーン店のトイレに掲げられていた名言をご紹介します。和風居酒屋で、日本酒の種類も豊富な、とあるお店のトイレには、こんな名言が掲げられていました。「冷酒と親の小言は、後で効く」という。お酒を嗜まれる方は、ご存じかと思いますが、冷酒、つまり、冷たい日本酒は、とても飲みやすく、そして酔いの回りもゆっくりで、それゆえに後になってから飲み過ぎを悔やむということがあります。それと同じように、親の小言とは、聞かされている時には、気にも留めず聞き流してしまうような軽さを感じてしまいますが、後になって「ちゃんと言う通りにしておけば良かった」という後悔を生み出す得るものです。神様の御言葉と、冷たい日本酒を同列に扱うのは、不謹慎かも知れませんが、カナの婚礼の場面で、美味しいワインを用意されたイエス様の優しさを信じて言いますと、神様の御言葉も「後で効く」という場合が、きっとあるのだと思います。もちろん、その効き方というのは、二日酔いとか気持ち悪さということではなくて、私たちの人生に豊かさと喜びをもたらす、そんな効き方です。人に嘲られることを恐れず、ののしられても慄くことのない、自信と励ましを得られるような効き方です。

私達は、主の御言葉と共に歩んで参りましょう。世の中には、聖書よりもずっと分かりやすく、すぐに役立つ言葉が溢れていますが、私達は「後で効く」こと請け合いの御言葉に親しみ、拠り頼んで行きたいと思えます。私たちが愛してやまない方の御言葉なのだから、私たちが愛するがゆえに語られた御言葉なのだから、信じて受け止めて、たとえすぐには理解できずとも、こころに置いて、今週もご一緒に主の道を歩んで参りましょう。お祈りを致します。

神様。今日も私たちのために尊い安息日を備えてくださり、心から感謝致します。今日も、あな

たの御言葉に触れました。あなたの恵み深く、しかし、決して柔らかいとは限らない御言葉を、今日も頂きました。どうか神様、今日頂いた御言葉を、今日から始まる1週間を通して、私たちに味わわせてください。あなたの語られた一言一句が、私たちの一挙手一投足を支え、励ましと喜びを与えてください。あなたの御言葉に生かされて、押し出されて、それぞれの場所で、キリストの肢として仕え、用いられることができますように。このお祈りを我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

5月誕生者の祝福祈禱

聖書：詩編 71 編 14～19 節

14 わたしは常に待ち望み、繰り返し、あなたを賛美します。15 わたしの口は恵みの御業を、御救いを絶えることなく語り、なお、決して語り尽くすことはできません。16 しかし主よ、わたしの主よ、わたしは力を奮い起こして進みいで、ひたすら恵みの御業を唱えましょう。17 神よ、わたしの若いときから、あなた御自身が常に教えてくださるので、今に至るまでわたしは、驚くべき御業を語り伝えて来ました。18 わたしが老いて白髪になっても、神よ、どうか捨て去らないでください。御腕の業を、力強い御業を、来るべき世代に語り伝えさせてください。19 神よ、恵みの御業は高い天に広がっています。あなたはすぐれた御業を行われました。神よ、誰があなたに並びえましょう。

5月の誕生者

神様。

私たちは、5月最初の聖日に、こうして5月生まれの方々のことを憶えて祈りを合わせています。あなたは、私たちが母の胎内にいる時から、私たちのことを見つけ、今に至るまで導いてくださいました。この5月生まれの方々も、それぞれの人生において、あなたのことを知り、あなたに導かれてきたことを受け入れて、主と共に歩むものとされました。どうか、あなたを仰ぎ見つつ、その御心に従おうとされる方々を豊かな祝福で満たしてください。また、人は一人では生きてはゆけません。5月生まれの方々も沢山の人に支えられ、今という時間を歩んでおられます。この方々の周りにいる掛け替えのないご家族、ご友人の上にもあなたの恵みが注がれますように、祈ります。

この感謝と願い、尊き主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。